

科目名	コンピュータ利用技術 I	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	Computer Use Skills I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
ふりがな	もりもと あつし	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	森本 敦志	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	データを活用する技術や、社会での応用を学びます。また Excel の利用によりデータの集計・解析ができるようになることがもう一つのテーマです。				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 - データを活用する技術の知識や社会でのデータ活用の現状を学び、社会の変化に対応できる能力を身につける。 - Excel などのデータ解析ツールを用いて、データの分析ができるようになる。				
授業概要	この授業では、データ関連の技術や社会での活用の現状を概観し、基本的なデータ解析の技術を Excel を用いて学びます。データの収集から解析、視覚化までの基本的なプロセスを習得するとともに、データがビジネス、政策決定、社会問題にどのように活用されているかについても学びます。Excel を使った具体的なデータ処理技術を習得することで、データに基づいた意思決定がどのように行われるのか理解し、その基礎を築きます。				
授業計画					
第1回	ガイダンス				
第2回	社会で起きている変化（ビッグデータ、検索エンジン、SNS、AI の進化）				
第3回	社会で活用されているデータ（データの種類、データの所有者、構造化データ・非構造化データ）				
第4回	データと AI の活用領域（事業活動におけるデータ、活用目的ごとのデータ）				
第5回	データと AI 利活用のための技術（予測、グルーピング）				
第6回	データと AI 利活用のための技術（クラスタリング、非構造化データ）				
第7回	データと AI 利活用のための技術（データ可視化、人工知能）				
第8回	データ・AI 活用の現場（データ分析による意思決定,データ分析の実際）				
第9回	データ・AI 利活用の最新動向（最新のビジネスモデル、最新技術）				
第10回	データ・AI を扱う上での留意事項（GDPR, AI 倫理,悪用事例）				
第11回	データを守るうえでの留意事項（セキュリティとプライバシー）				
第12回	・政府統計データベース Estat の活用				
第13回	・個票データを用いたデータ分析（統計センター 教育用擬似マイクロデータ/文部科学省 パブリックユースデータ）				
第14回	・個票データを用いたデータ分析（統計センター 教育用擬似マイクロデータ/文部科学省 パブリックユースデータ）				
第15回	・個票データを用いたデータ分析（統計センター 教育用擬似マイクロデータ/文部科学省 パブリックユースデータ）				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 前回の復習(0.5 時間程度)をしてから、次回の授業に備えてください。 2. 授業前に教科書の該当箇所に必ず目を通してください。分からない用語は、聞き逃さないようにノートにまとめておいてください。(0.5 時間程度) 3. コンピュータ入門で学習したパソコンの知識が必要になります。復習しておいてください。				
履修条件 受講のルール	・所有パソコンに Word, Excel をインストールしておいてください。 ・コンピュータ入門の単位を修得していることが望ましいです。				

	・教科書は必ず購入してください。 ・必要がある場合はポータルサイトから資料を配布します。
テキスト	「教養としてのデータサイエンス（データサイエンス入門シリーズ）」講談社
参考文献・資料	
成績評価の方法	試験 60%、授業中に与える実習及び演習課題等 40%としますが総合的に判断します。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・課題は必ず提出することが前提で、授業内又は掲示板（ポータルサイト含む）で指示します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週 金曜日 13:00～14:30
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	現在、ビジネス、医療、政治、科学など、多くの分野でデータの利活用が進んでいます。この授業を通じて、皆さんがデータ利活用への理解を深めることができれば幸いです。